

TFC KA・RI・YA

チーム名:TFC KA・RI・YA

Software Test Fighting Club KA・RI・YA

**東海地方でソフトウェアテスト
及び品質の勉強会をやっている
コミュニティである「TEF東海」。
その有志で結成したテスト設計
の勉強サークルです。
主に刈谷で勉強会をやっています。
だからKA・RI・YAです。**

チームメンバー

- なのっち:リーダー。こう見えて純国産。(組み込み開発)
- やのっち:伊達メガネ。(組み込み開発)
- もりっち:真のメガネ。おうちに帰りたい。(SEPG)
- ちかみっち:第三のメガネ。本日の発表者。(SEPG)

チームコンセプト

- テストの悩み解決へ・・・
- バグとの戦いに勝利する。
- 嫌いなもの・・・虫くん

テストの悩み①

ぐちゃぐちゃなテストベース

- ・CPM法ではダメ
- ・テスト分析時に情報整理
=あとの設計が楽(うれしさ)

めざすのは、分析しながら
情報の欠損を補足

- ・USDMのまとめがらなMECEチェック
- ・DFDでつながりを把握

先行研究:JaSST'13Tokyo

<http://www.jasst.jp/symposium/jasst13tokyo/pdf/A4-2.pdf>

テストの悩み② 巨大なマトリクス

- ・マトリクスは全体俯瞰できて便利でも、でっかくて手におえない！

巨大化！

MITSUBISHI Japan Symposium on Software Testing 2013 Tokyo

見通しのよいテストの段階的詳細化の手法
-テストの網羅性確保の提案-

本日の発表者:吉岡 克浩†
共著:水野 昇幸† 西 康晴‡

†三菱電機株式会社
‡電気通信大学 情報理工学研究所

2013年1月30日

MITSUBISHI 2. 課題の深堀と解決方針

第2世代の問題点:
テスト対象の規模に比例し機能数が増加 ⇒ マトリクスが巨大化
全部考えるとこんな感じ。





テストの悩み解決へ・・・解決方針

解決方法を絵にしたら・・・

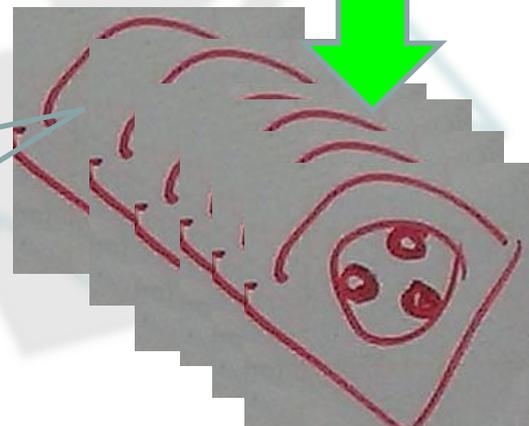
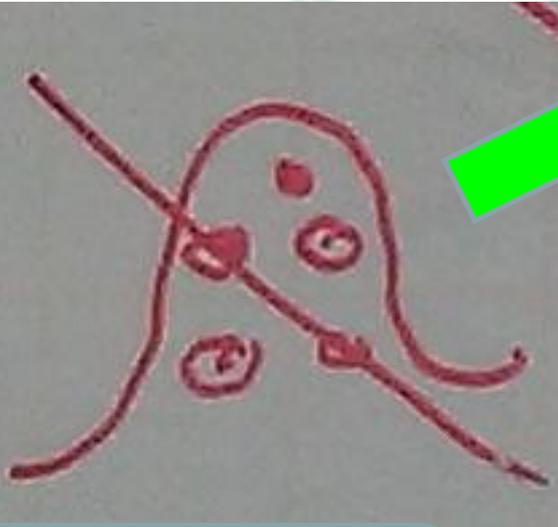


テスト対象:スライム
テスト観点:スライムの中の点点

切った断面に
うまいぐあいに、
テスト観点が並ぶ。

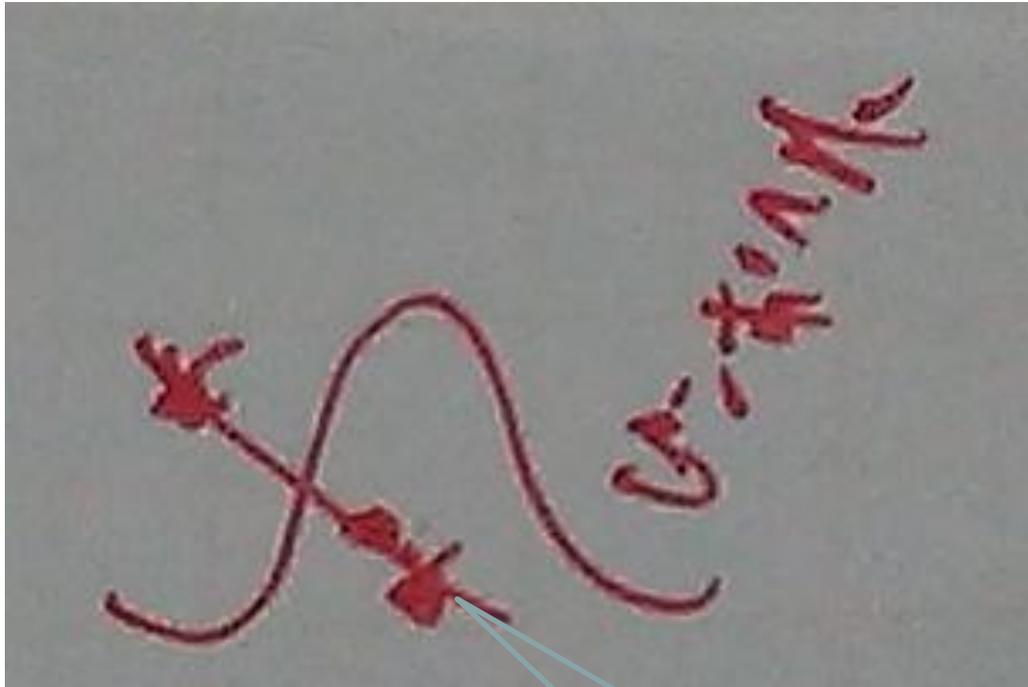
魔法をかける
ガビガビガビー
・・・すると切りやすい
様に点点が移動する。
これがテスト分析

どういう風にきれば
良いかを考えるのが
テストアーキ設計





テストの悩み解決へ・・・解決方針



ちなみに、
1点をぶすっと突き刺すの
がピンポイントテスト

プロセス設計の目標

①素性の良い情報分割

テストアーキ設計段階で情報を分割。
以降のテスト設計を分割して行えるようにする。

②テストベース情報の整理

テストベースから抽出した情報をUSDMと
DFDで整理。情報欠損を抽出する。

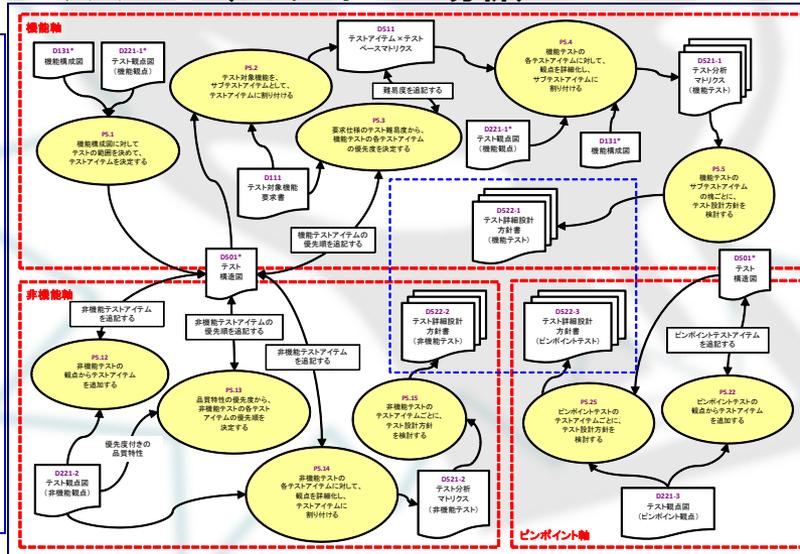
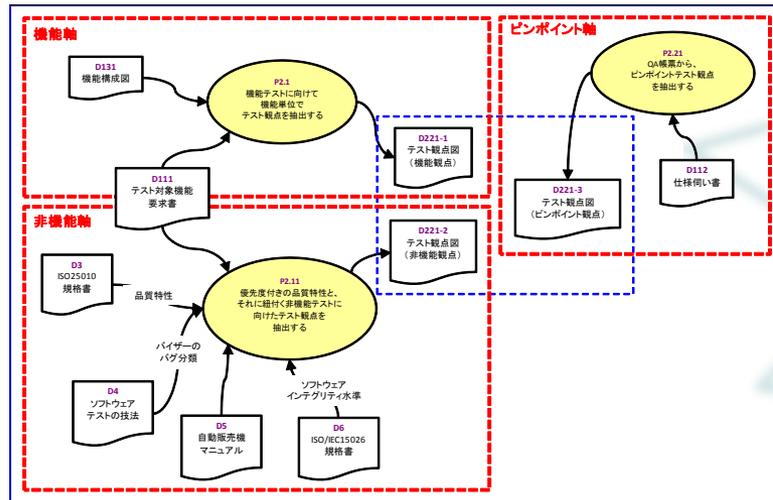
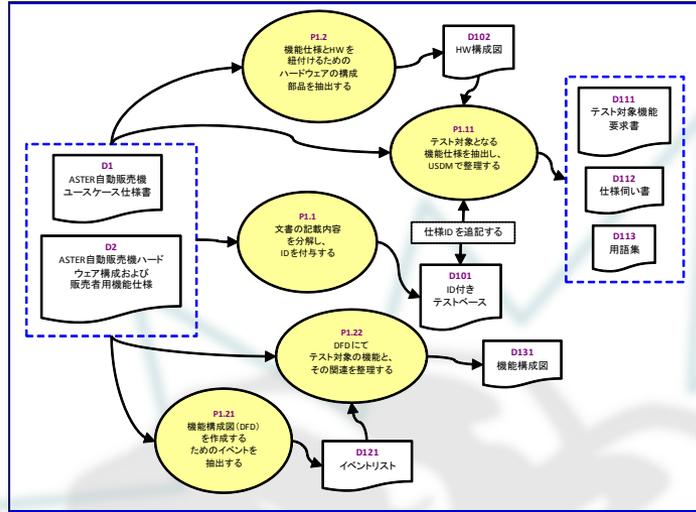
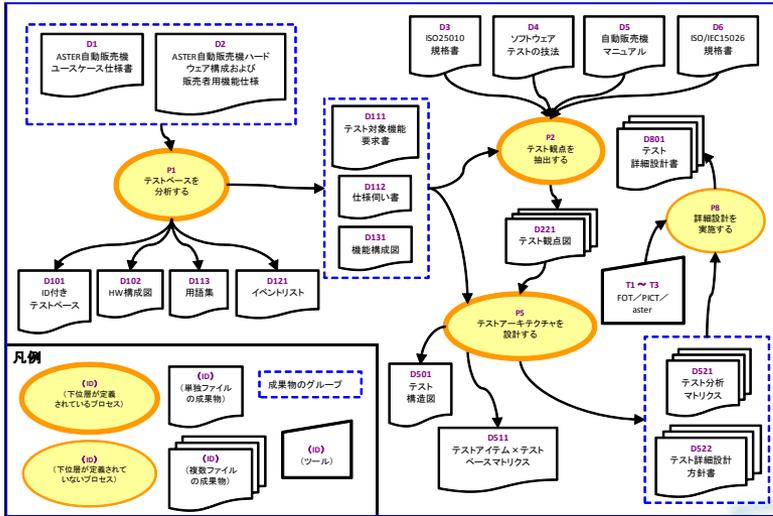
TFC流テスト設計プロセスの特徴

- 機能、非機能、ピンポイントと分割
- 機能モデル構築が全てのベースとなるのでまっさきにやる
- テストケース生成はツールをがりがり使う

FOT
PICT
Astah



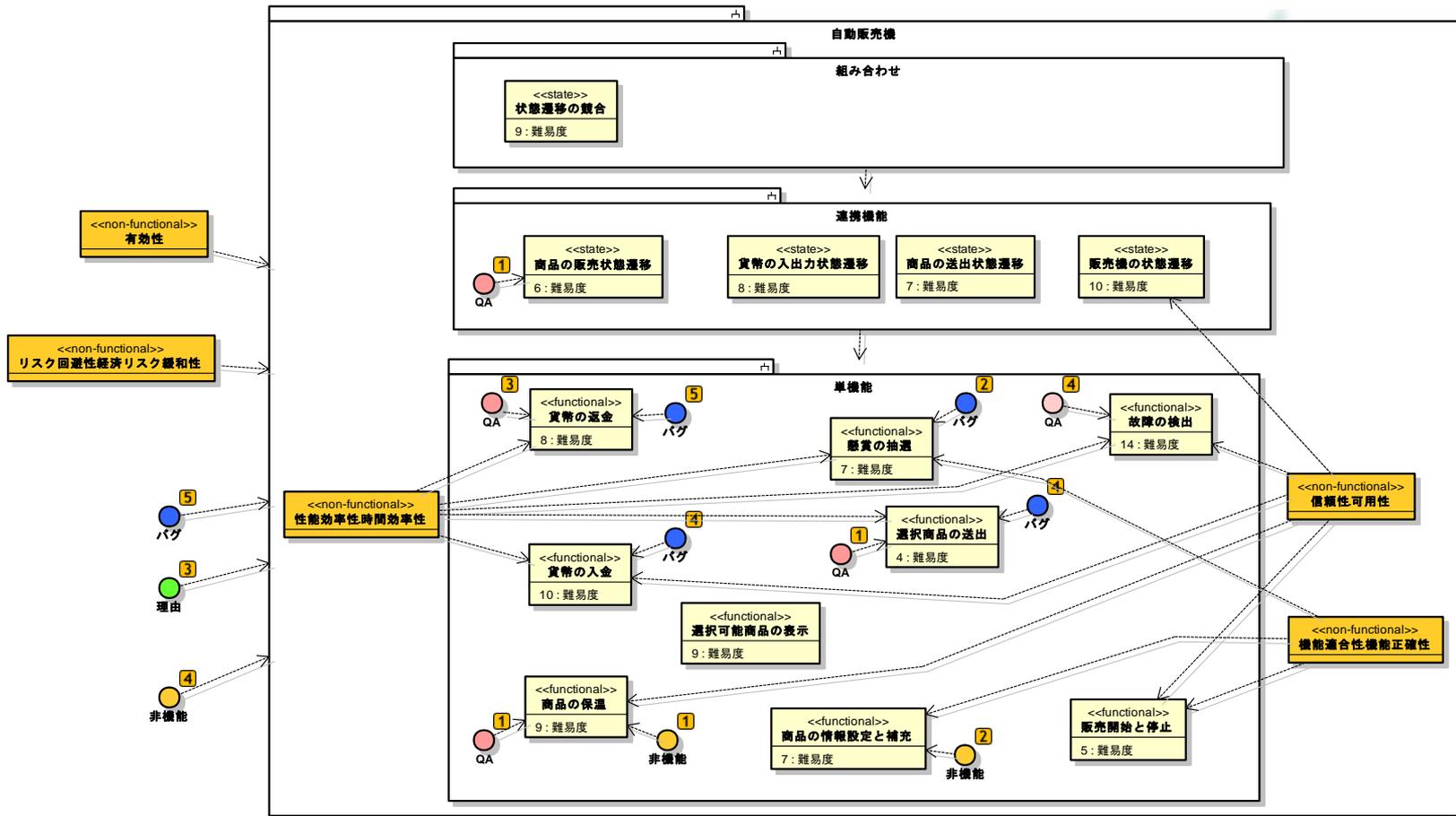
テスト設計プロセスの全体像



サブプロセス(P2 テスト観点抽出)

サブプロセス(P5 テストアーキテクチャ設計)

テストアーキテクチャ図として、抽出した情報をまとめる。



ポイントは、分割のしやすさ